



高知大学農林海洋科学部・農学部
Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

後援会だより

目 次

ご挨拶 農林海洋科学部・農学部 後援会長 森下 祥朋	1
ご挨拶 農林海洋科学部長 農学部長 尾形 凡生	2
農林海洋科学部・農学部担当教員の紹介	3
学生寄稿	
農林海洋科学部	5
大学院	13
就職等進路状況資料	17
後援会資料	
令和元年度 後援会総会について／役員名簿	19
令和元年度 予算書	20
平成30年度 決算書	21
令和元年度 後援会の活動状況	22
令和元年度 保護者会報告	23
高知大学農林海洋科学部・農学部後援会規則	25
令和元年度 学年暦	26
物部キャンパス Photo Album	27
高知大学 学歌	31

ご挨拶

農林海洋科学部・農学部
後援会長 森下祥朋



会員の皆様におかれましては、日頃より後援会の活動につきましてご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度、後援会会長の大役を仰せつかりました森下祥朋と申します。責任の重大さを痛感しておりますが、保護者代表として微力ながら後援会の役員、事務局の皆様方とともに精一杯努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、元号が「平成」から「令和」へと移り変わった今年は、平成28年度農林海洋科学部に入学された1期生の皆さんが卒業される記念すべき年でもあります。これから、これまで以上に新しい分野の産業やカルチャーが次々と登場することが予想され、そのような時代の流れにどう対応できるか、常にアンテナを立て時代を読む力を養う必要があると感じます。教育においても新たな時代が始まります。変化の激しい社会を生きていく学生の皆さんが、社会の中で活躍できる力を育成するための教育が求められていくとのこと。また、異常気象による自然災害の多発や不安定な国際情勢など、これから未来に向かって困難な状況も予想されます。学生の皆さんには、様々な大学の活動を通じて、社会人としてまた次世代の担い手としてのスキルを身につけ、さらに社会に貢献していくための「力」を養って大きく羽ばたいて欲しいと願ってやみません。

後援会では、ご子息、ご息女が充実した大学生活を送ることができるよう、教育研修支援、就職活動支援、文化生活支援等への援助ならびに会員相互の親睦を図ってまいりたいと考えております。

11月3日(日)には物部キャンパス1日公開ならびに農林海洋科学部・農学部保護者会(就職説明会)が開催されました。今年度の保護者会でも大勢の保護者・ご家族の方に来場いただき、ご好評をいただいております。本学部は高知県以外の出身学生が約9割と聞いており、遠方のご父兄様が多いですが、今後もイベント開催時等、たくさんの方に足を運んでいただけたらと考えております。

結びに、会員の皆様とご家族のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。引き続き後援会へのご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

ご挨拶

農林海洋科学部長
農学部長
尾形凡生



農林海洋科学部・農学部後援会の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、学部・専攻の教育運営に多大なご協力とご支援をたまり、心より御礼申し上げます。

平成28年度に改組いたしました農林海洋科学部が、この春にはじめての卒業生を送り出します。山から深海に至る農林海洋科学のフィールドがすべて身近にあり、経験科学や技術に基づく実用的学問を学ぶ場として最適であることを折に触れ標榜してまいりましたが、卒業生たちには、豊かな自然に囲まれたここ高知で過ごした時間を糧として、社会で存分にはばたくことを祈念するところです。

新入生を迎える際に、毎年、「本を読もう。恋をしよう。旅をしよう。」という標語じみた歓迎の辞を述べています。「新入生諸君。僕は人生の先輩として君らに忠告するけれども、君らは読書、恋愛、旅行なんかいつだってできると思っているかもしれないが、社会人になったらこれができない。なぜできないか。周りが寄ってたかって足を引っ張り、邪魔をするからである。なぜ邪魔をするか。読書、恋愛、旅行が人を熱中させるからである。なぜ熱中すると良くないのか。それは何かに熱中できるくらい自由であることを社会が羨むからである。大学とは、ある意味一般社会からかけ離れ、何かに熱中することが許される場である。熱中すること自体を本分とする場である。さあ、本を読みなさい。恋をみなさい。旅をみなさい。」

この歓迎の辞は、卒業生へのはなむけの言葉へと続きます。「僕は数年前、君らに本を読もう、恋をしよう、旅をしよう、この手のことは学生時代しか熱中できないぞという話をした。今、卒業の時を迎えて、自由な日々が終わることを惜しむ人も多いと思う。僕は人生の先輩として君らに僕の経験を語るけれども、時間があるが無かろうが、周りが足を引っ張ろうが引っ張るまいが、いやむしろ、邪魔があるからこそ、人は心のおもむくままに何かに熱中できるのである。さあ、本を読みなさい。恋をみなさい。旅をみなさい。これからも学問の自由を謳歌みなさい。」

後援会の皆様には、今後とも変わらず、物部キャンパスで学ぶ若者たちへ、あたたかい声援をおおくりいただくことをお願いして、私からのご挨拶といたします。

農林海洋科学部・農学部担当教員の紹介

農林海洋科学部・農学部を担当する教員、主な研究テーマ・活動を紹介いたします。

農林資源環境科学科

暖地農学主専攻領域

教授	尾形 凡生	果樹の成長制御機構の解明とケミカルコントロール技術の開発
教授	島崎 一彦	試験官内の組織培養によるランの苗生産技術の開発と希少植物の生態調査
教授	村井 正之	稲遺伝・育種、老人・病院用ご飯、米粉パン用極多収晩生品種、良食味、鑑賞用稲
准教授	西村 安代	野菜の養液栽培・生理障害・園芸施設の光環境・環境保全型農業
准教授	増田 和也	農山漁村における資源利用と社会変容に関する研究
准教授	松川 和嗣	高知県独特の和牛である土佐あかうしの生産振興にかかわる研究
准教授	宮内樹代史	園芸ハウスの環境制御技術の開発、植物生産流通システムの最適化
准教授	宮崎 彰	イネの高温登熟性・乾燥適応性に関する研究、熱帯有用植物の栽培生理
講師	濱田 和俊	果樹の開花・果実発育の制御およびメカニズムの解明
講師	松島 貴則	労働力問題と農業サービス、土地利用型農業の研究
講師	山根 信三	循環型農業生産・高品質種なし果実の作出・GTL利用省エネ多収農法

自然環境学主専攻領域

教授	荒川 良	天敵昆虫を利用した農林・衛生害虫の防除の研究、害虫管理技術開発
准教授	伊藤 桂	ハダニ・昆虫類を用いた行動生態学・進化生態学
准教授	手林 慎一	植物の病害虫や環境に対する抵抗性の化学的・分子生物学的解明
准教授	森 牧人	広域農林生態系の気象環境学的評価
准教授	鈴木 紀之	昆虫の行動・進化・群集、生物多様性の生態学的な効果
講師	阪田 光和	イネの遺伝資源の利用に関する研究

森林科学主専攻領域

教授	大谷 慶人	きのこの生態と栽培、樹木精油の機能、木材・非木材パルプ・紙
特任シニアプロフェッサー	塚本 次郎	環境・生物多様性保全に配慮した森林管理技術、落葉分解系の空間分布パターン
准教授	市浦 英明	機能紙に関する研究、バイオマス産業廃棄物の再資源化に関する研究
准教授	市栄 智明	樹木の成長や繁殖、環境ストレス応答に関する研究
准教授	鈴木 保志	林道・架線、森林作業システム、木質バイオマスの収穫と利用
講師	松本 美香	中山間地域における森林管理、林業林産業構造、集落構造
講師	守口 海	最適な森林資源管理の計画手法と応用

生産環境管理学主専攻領域

教授	河野 俊夫	食品偽装防止技術、食品への異物混入検出技術などの食品安全工学
教授	藤原 拓	地球温暖化を考慮した流域水環境管理に関する研究
教授	松本 伸介	農業水利施設の構造設計、建設材料の新規開発、音環境の調査
准教授	齋 幸治	地域水環境悪化の原因メカニズム解明と改善
准教授	佐藤 周之	流域水環境管理および流域社会基盤管理に向けた総合的な工学的研究
准教授	佐藤泰一郎	中山間地域の水・土・里環境保全、環境型傾斜地農業の推進
准教授	松岡 真如	衛星データやデジタル地図を活用した陸域環境の解析

農芸化学科

教授	菅内 誠	バイオベース新素材の開発と応用、環境先進型の微生物分子育種技術の確立
教授	岩崎 貢三	土壌—植物生態系、植物の物質吸収・蓄積機構、環境保全型農業
教授	枝重 圭祐	動物の生殖細胞の凍結保存技術の開発と耐凍性に関わる遺伝子の探索
教授	木場 章範	植物の発病・免疫機構の解明～病気に罹らない植物をつくろう!～
教授	金 哲史	昆虫行動を制御する化学因子・植物の生理活性物質に関する研究
教授	康 峪梅	土壌・水の有害金属汚染、草原退化の機構解明と対策
教授	田中 壮太	熱帯土壌学、土壌生態学、持続可能な農業
教授	永田 信治	食と健康と環境に役立つ有用微生物探索と産業利用
教授	曳地 康史	植物細菌学：細菌と植物の相互作用の解明と植物病害防除技術開発
准教授	上野 大勢	高等植物の栄養生理に関する研究
准教授	柏木 丈弘	食品中の生体調節物質の探求、食品の香り成分の有効利用
准教授	島村 智子	食品成分に関する研究、食品の機能性の解明
准教授	村松 久司	産業用酵素の探索・機能解析・応用法の開発
講師	若松 泰介	新規有用たんぱく質の探索、機能解析・構造解析、そして応用

海洋資源科学科

海洋生物生産学コース		
教授	足立真佐雄	赤潮有毒プランクトンの研究、プランクトンによるバイオ燃料生産
教授	池島 耕	沿岸の環境、水生生物の生態と保全に関する研究
教授	大嶋俊一郎	魚病原因微生物の診断・感染機構・防除法、養殖魚の生産に関する研究
教授	關 伸吾	魚介類の品種改良、野生集団の遺伝的保全に関する研究
教授	森岡 克司	養殖魚の品質、鮮度保持に関する研究、未利用資源の有効利用
教授	益本 俊郎	養殖魚飼料の栄養と消化吸収に関する研究魚が必要とする栄養素の働きを調べ、餌の開発に利用する研究
准教授	足立 亨介	海産無脊椎動物と深海動物を用いたバイオテクノロジー
准教授	中村 洋平	魚類生息場の機能解明、海産魚類の生態
准教授	深田 陽久	魚類の食欲・消化・成長に関する研究、ブランド養殖魚の開発
准教授	山口 晴生	海洋植物プランクトンに関する研究、内湾赤潮の解明
講師	今城 雅之	魚類の病原微生物(ウイルス、細菌、原虫、寄生虫)に関する研究

海底資源環境学コース		
教授	上田 忠治	新規金属錯体の合成および酸化還元反応解析
教授	岡村 慶	海底鉱床探査のための現場型化学センサ開発
教授	村山 雅史	海洋の物質循環と海底資源形成に関する研究
教授	寄高 博行	海洋表層流の変動に関する研究
准教授	西尾 嘉朗	温泉の子どもの調査研究
准教授	野口 拓郎	海底熱水活動に伴う有用金属・有害金属の動態解明
助教	長谷川拓哉	機能性無機材料の開発と新機能付与

海洋生命科学コース		
教授	久保田 賢	造礁サンゴなどの海洋生物のタンパク質や遺伝子に関する研究
教授	津田 正史	海洋微細藻からの有用物質の探索と開発、およびDNP-NMR研究
教授	長崎 慶三	海洋生態系におけるウイルスの役割と存在意義に関する研究
教授	深見 公雄	海洋微生物の生理・生態とその働きを利用した環境保全・修復
准教授	金野 大助	有機反応化学および量子化学計算による分子構造・反応解析
准教授	櫻井 哲也	藻類等の生命情報を網羅的に用いた比較解析によるゲノム研究
准教授	寺本 真紀	有益な物質の生産や環境浄化にむけた有益な微生物の探索・構築
准教授	難波 卓司	海洋生物が産生する化合物の薬理作用の探索と真核細胞の恒常性維持機構の解析
准教授	三浦 収	海産無脊椎動物の生態と進化の研究
准教授	山田 和彦	次世代型NMR装置の開発
助教	小野寺健一	海洋共生微細藻を大量に培養し未利用物質資源を探索する研究
助教	Dana Ulanova	海洋微生物の二次代謝産物生合成研究

私の高知での大学生活

農林資源環境科学科
自然環境学専攻領域2年生 増田 有沙

私は高知大学に入学し、一年半高知という地で大学生活を送ってきました。その生活やその中で感じたことをご紹介します。

現在私は自然環境学領域に所属し、農業を取り巻く自然環境について学ぶような授業や実習を受けています。日々生態学や昆虫について学ぶことができ、自身の当初からやりたかった勉強ができ、毎日充実しています。

高知に来て良かったな、と思うことは、自然が多く、実習などでもフィールドに飛び出していく機会が多いということです。自身もいま“学生狩猟団体 土佐の懸橋 ハンプロ”というサークルに所属しています。ここで山に行って罠を用いて狩猟をしたり、農家さんにお話を聞く中でイノシシやシカによる獣害について勉強ができています。これは高知全体がフィールドになりえる環境にあるからこそ実現できることではないかと思っています。

高知での生活では学ぶということ以外にも自然にあふれているので、家から少し車を走らせると、夏休みに川に行き遊んだり、美しい景色を見たりすることができます。また、少し街のほうへ行けば地元の食材を使ったカフェなどがあり、私は休日にそういったお店にいったまわるのが趣味です。またそういったお店にいくと地産地消や農業と生活の関わりを感じることもでき勉強になります。

大学に入って感じていることは大学生という期間は高校までの生活に比べ時間や行動範囲の自由度が広がるということです。逆に自由であるからこそ人それぞれの過ごし方があるのだな、と思います。現に私の友達にもバイトを頑張っている人もいますし、サークル活動にいそんでいる人も

いて、それぞれ違うことを違う場所で頑張っています。私自身としては今の時間をこれからの人生を考える期間にしたいと思っており、そのために本を借りて読んだり、科学館での展示解説ボランティアなどをしてより多くの経験を積んでいます。

ここまで私の高知での大学生活をご紹介しますが、大学時代をこの高知という地で農学に触れることができたのはとても良い経験になっています。これからも、この環境を生かして積極的に行動していくような生活を送っていこうと思っています。



変わるもの、変えるもの、 そして変えるべきでないもの

土佐さがけプログラム
生命・環境人材育成コース2年生 増田 亜衣莉

新たな学びの場として、高知大学を、現在所属するプログラムを選び、思い返せばもう2年が立とうとしている今、本原稿の執筆に際して私は自身の变化したこと、変わらず抱きつけていることについて、以下に述べたいと思います。

私は中高と6年間、ほぼ毎日部活動として武道に励み、そのことや家から遠いこともあって同期間寮生活を送っていました。親元を離れていることを考えると今も変わらないように思いますが、やはり帰る場所にいつも変わらず同級生や寮母

の先生がいたこと、壁にぶつかった時は何かしらの道標があったこと、これらは自身が置かれた環境の変化と言わざるを得ません。また、学業のみに関わらず、様々な悩みや問題ごとに対して親身になってくださった先生方の存在が近くにはないこと、これも大きく変化したことの1つです。

しかし、先に挙げた変化と感ずる点は、変わるべくして自身がより成長する方向へ変わったのではないかと私は考えます。学年や環境が変わる中、その人その人に要求される到達点は変化し、それに伴うことができるよう、自身にも変えていくべきことがあるのではないかと、そう思うからです。大学に進学した今は、部活動をしていた時間を勉学に励むことができる時間として活用できていますし、学級という単位がないことで、むしろ様々な事柄に興味・関心を抱く友人や先輩方と交流をもつ機会を積極的に作ることもできるようになりました。そして、これまでの中高時代とは違い、更に自身の言動、行動に責任を持つ行動をするよう変わることは、私だけでなく大学生全般に課せられた事柄であると考えます。

一方で、これだけは譲れないということ、少なくともそこまでは頑張らなければと考えることの中には、今までも現在も変えるべきではないことも多くあると考えます。具体的には、講義中難しいと思ったことはその日のうちに家で復習したり調べたりする、分からないことはその場で聞く、試験期間は時間を有効活用するために生活リズム少し変える、といったことです。

環境や周りで支えてくれる人々は様々に変わるなか、4年間の大学生活も折り返しの時期であるからこそ、これは変えるべきだ、これは変えるべきではないのではないかと、などと振り返りつつ、より充実した日々を送っていきたいと思います。

高知大でしかできないこと

海洋資源科学科
海底資源環境学コース2年生 水原 涼

私はある小説との出会いで海洋資源、特に“海底資源”がもつ可能性に興味をもち、学んでみたいと思い現在所属する農林海洋科学部海洋資源科学科海底資源環境学コースに来た。

そんな私が高知大に入学して約1年半が経過した。一年次は朝倉で教養を学び、今は物部で専門科目の勉強に励んでいる。大学は高校とは違い座学ばかりではなくグループワークや実習、実験、レポートなどが多いので大変ではあるが楽しく充実している。

実習では一年生時の“FS実習”が特に印象に残っている。FS実習では自分の所属するコースのことだけでなく農林海洋科学部として他のコースのことも学んだ。農林分野では田植えや植物観察などを学び、農芸分野では細胞の観察などを学び、海洋分野では実習船に乗ったり、カツオのたたきを作ったり、ジオパーク巡検など実際の現場で学び、他大学ではなかなか経験することができない贅沢な経験をした。

実験は、海洋開発研究機構と共同で運営している高知コアセンターでやらせてもらっている。コアセンターには最先端の機械や採取したコアを冷凍保管していて、最近行った実験では実際のコアを観察したりどのような特性があるのかということ調べたりスケッチなどをした。そもそも“コア”とは何なのか。簡単に言うと地球の歴史書のようなものである。海底数千メートルの地層を柱上に掘り出したもので、地球の過去から現在までの気候変動などの記録が刻まれており、どのようなイベントがあったのかということを知ることができる。また、それを活かして未来の予測などもできるとされている。コアを使った研究では

近いうちに発生するといわれている南海トラフの解明などを行っている研究者もいる。コアは地球の過去現在未来すべてを知ることができる“地球の宝物”ではないかと私は考えている。こんな素晴らしい地球の宝を目の前で見て触れるという今の状況に私はとても感謝している。

こんな感じで私は高知大でしかできないことをたくさん経験できて、毎日がとても充実している。このような楽しい経験はサポートしてくれる先生方、ともに学びあい競える仲間、自分のやりたいことを応援してくれる親がいて成り立つものだと思うので日々感謝の気持ちを忘れず、これからも勉学に励んでいきたいと思う。



実際のコア（中央の茶色の棒状のもの）

あと一年…

農林資源環境科学科
森林科学主専攻領域3年生 塩崎 晶子

高知大学に入学して早3年。入学当初と比べて朝の生活リズムが変わりました。1年生の時は毎日弁当を作り徒歩で大学へと通いましたが、2年生からはキャンパスが変わったので雨の日も晴れの日も自転車で通いました。現在では履修する講義数が減り、弁当を持って大学へ行く日のほうが少なくなりました。

私が高知大学の森林科学領域に推薦で入ろうと思った理由は、小学生の時に木が好きになっ

たことが理由です。その日は町探検で公園に来ていました。昼食後の自由時間に大きな葉っぱや色鮮やかな葉っぱなどを拾い集めました。家に帰って、「この葉っぱをどうしよう」と考えました。その時厚い大きな葉っぱが目にとまり、「この葉っぱに文字を書いて両親に今日の町探検のことについて知らせよう」と思いつきました。

後に調べて分かったことですが、その葉っぱはタイサンボクという木の葉でした。この時までは全てが同じ「葉っぱ」という認識でしたが、この時から一つ一つの木の葉は違うことを実感して木がより好きになりました。

大学の今までの講義の中で、木に触れ合えて楽しいと思えた講義は樹木学実習でした。この講義は毎週高知県の色々な山などで樹木を採取して特徴を教わり、採取した樹木を新聞紙に挟んで標本を作ります。また講義のうち3回、樹種名を答える試験を行いました。友人の一人に樹木にとっても詳しい子がいて、最初の方の講義では「この樹種は？」という先生の質問にスパッと答えていて、ただただ「凄いなあ、よく知っているなあ…」という思いでした。しかし、講義の回数を重ねていくうちに私も少しずつ樹種名を覚えていき、試験の前になると「友人に負けたくない！」という気持ちが強くなりこれまで以上に、標本の新聞紙をこまめに換え「この葉の形、この特徴を持つのは〇〇だ」と頭にインプットさせていきました。その積み重ねのおかげか、回を重ねるごとに持ち帰る樹種が少なくなるのが、とても嬉しかったです。最終的に友人と私の試験の点数は引き分けという結果になりましたが、満足する結果でした。

将来は大学で学んだことを生かすとともに木が好きなので樹木の保全や管理といった分野で働きたいと考えています（しかし、まだ迷っています…）。将来のことも考えつつ、樹木の生態など

について研究できる研究室の席を勝ち取ることが出来たので、これからの一年でさらに多くの事を学び、知識を増やしていきたいと考えています。

学生の内にはできない事

農芸化学科3年生 小杉 香南子

「大学生活は人生の夏休み」とよく聞く様に、暇なくらい自由な時間があると言われていました。私はこの3年間を通して、その自由に与えられた時間をどう過ごすかによっては、毎日忙しく、充実し過ぎるくらいの日々を送れていると感じています。色々な事にチャレンジできる今だからこそ、学んでいる事がたくさんあります。

私たち農芸化学科は、2回生になってからいきなり忙しくなります。必死に勉強しなければ単位が取れない講義がほとんどになり、さらに後期から毎日学生実験が始まります。学生実験はかなり大変ですが、研究室分属前に農芸化学の全ての分野の実験が経験できる為、充実した1年間になり、私はこの学生実験が高知大学の農芸化学科の一番良い所だと感じています。

実験等が忙しくなる為、バイトやサークルをやらない人も周りにはいましたが、私はそれ以外の時間を学生の内にはできない事に費やしています。

私は朝倉キャンパスのストリートダンスサークル KSD に所属しています。普段のサークルの時間以外にも、バイト後に集合し、イベントに向けて夜中までダンスの練習をしています。毎日講義は1限からで、研究室の集合も早く、かなり寝不足な日々が続きますが、ダンスが大好きな仲間とここまでして一生懸命練習する事は、絶対大学生の内にはできない事です。正直お金と時間、体力がどんどん失われてますが、その分時間の使い方や計画立てる重要性に気付かされています。

また、私は医学部のダンス部にも参加しています。これは、「もっと上手になりたい」「やりたい事を思いっきりしたい」という思いで、更に自らを忙しくして、岡豊キャンパスにも通うようになりました。正直、物部での授業、朝倉でのサークルというスケジュールとの両立の難しさはかなり体力的にも精神的にも弱る事は多々ありますが、医学部の人達の、勉強だけではなくダンスや遊びにも全力で取り組んでいる姿に刺激を受け、何かを辞めるという選択肢を持たず、勉強もダンスもバイトも必死に取り組んできたつもりです。

自らやりたい事を積極的にやり、この自由な時間が与えられている学生の内には、時間を目一杯使うことで、たくさんのお会いがあり、人として成長できるチャンスがたくさんあるのではないかと実感しています。卒業までの残された時間を、有意義に活用し、これからダンスはもちろん、勉強や研究、就活等を中心に、何事も全力で取り組んでいきたいです。



南国土佐での学生生活

海洋資源科学科

海洋生命科学コース3年生 伊藤 真澄

私は関東育ちで親戚は東北に住んでいて西日本に全く縁がない家でした。第一志望の大学に落ちてしまいどこを受けるか考えた時、第一志望

とは真逆の「高知」という未知の世界のぼんやりとした南国のイメージに惹かれ受験をすることにしました。

それから月日がたち気づけば私は高知で3年目の秋を迎えています。入学してから今日までを振り返ってみるとこの大学での生活をとても満喫していると感じます。大学のよさこいチームに参加したり、実習で大きな船に乗って黒潮を見に行ったり、山間地域の農業の手伝いサークルにお邪魔したり、高知大生として地域のお祭りや小学生の海のサマーキャンプの手伝いをしたり、実習でカツオのたたきを作ったり、綺麗な海でシュノーケリングやダイビングをしたり、ナイトダイビングでサンゴの産卵を見たり…ここ高知でしかできない貴重な体験を数えきれないくらいしました。

そしてこの10月から研究室での活動が始まり、今現在私は毎日岡豊キャンパスで卒論に向けて研究をしています。高知の海での様々な体験から更にサンゴに興味を持ち、サンゴの染色体についての研究を選びました。研究活動の一環としてサンゴの卵を採取しに行くことを今からとても楽しみにしています。このサンゴの産卵は年に一度だけなので4年生の夏の一度きりのチャンスで確実に卵を採取できるように、練習も兼ねて岡豊生活開始と同時に医学部のダイビング部に入部しました。医学部の先輩方は知識も経験も豊富なので沢山勉強させてもらっています。

これらの経験から私がこれまでの大学生活で一番学んだことは、少しだけでも自分から行動することによってより多くの経験をすることができ自分の可能性を上げられるということです。私がこの3年間でしたたくさんの体験は黙っていて降ってきたものではなく勇気を出して自分から声を掛けて参加させてもらったものがほとんどです。私はずっと自分から動いたり自分の意見を発信したりすることが苦手なタイプでしたが、3年間

の大学生活で少しだけですが苦手意識を減らすことが出来ました。また、そこでお世話になった方々との出会いも学生生活の中での非常に大きな学びとなっています。

卒業して高知を離れるまであと1年半を切りましたが、まだまだ行きたいところややりたいことがたくさんあるので残り少ない学生生活で卒論研究もしっかり頑張りつつ南国土佐での生活を楽しみ尽くしたいと思います。



宝物

農林資源環境科学科
暖地農学主専攻領域4年生 松本 彩華

高校2年の時、初めて高知大学物部キャンパスに来た際、1番はじめに思ったことは「ここが本当に大学なの？」でした。大学の敷地に入ると左に田んぼやハウス。そして遠くの方から牛の鳴く声。それまでオープンキャンパスで行っていた大学とは違う雰囲気に驚いたことを今でも覚えています。

この大学内に農場やハウスがあるということに惹かれ、私は約4年前入学しました。それから今日まで本当にあっという間でした。大学生活の中で新しい“経験”、“学び”、“人”という「宝物」に出会えることが出来ました。

まず、新しい“経験”として大学に初めて来た

ときに驚いた田んぼやハウスでの実習の講義があります。将来農業をしたいと考えていたものの実際に1から育てたことがありませんでした。そんな私にとってフィールドでの実習は座学では気づかないことや農業の難しさを知ることができとても良い経験になりました。次に、新しい“学び”として野菜や果樹、花卉などはもちろんハウスなどの施設園芸で使う設備について、そして副専攻である森林に関係することについてなど多彩な知識を得ました。そして、新しく出会った“人”。同じ学科や領域、部活などで出会ったたくさんの友達、様々なことを教えてくださった先生や技術職員の方々、授業やインターン、部活の中で出会った多くの人。この一人ひとりとの出会いは私にとって社会に出たとき大きな心の支えになると思います。



現在は植物育種の研究室でイネの収量性について研究しています。一つ一つ地道な作業ですが、「イネについて学びたい」という自分のやりたいと思っていたことを今できています。そして、卒業後の進路も自分のしたいことに興味・関心を持ってくださり、応援すると言ってくくださる所を見つけ、今から楽しみでドキドキワクワクしています。

高知大学を卒業した後、社会人として歩んでいきますがその中で辛いこと、悩むこと、大きな壁にぶつかることがたくさん出てきます。しかし、大学で得た多くの「宝物」があればそれらを乗り越えていけると思います。これまでお世話に

なった両親と多くの人に感謝し、多くのことを考え進んでいながら一人の大人としてさらに成長していきたいです。



長く短い4年

農林資源環境科学科
生産環境学主専攻領域4年生 松浦 忠寅

農林海洋科学部の記念すべき1期生として入学してから、クラゲのようにプカプカと漂うように平穏な日々を送ってきましたが、気付けばもう4回生の後期、時の流れる早さにはいつも驚かされます。授業を受けているときは「早く終わって欲しいな〜」なんて考えていたのに…。思い返せば領域分属の時に生産環境管理学プログラムを選択したが故にJABEE君には長年苦しめられ続けたなあ。JABEE君とは、所定の国際基準を満足する技術者教育プログラムかどうかを6年ごとに審査する学外機関のことで、現在、高知大学で唯一その認定を受けている生産環境管理学プログラムの履修生には卒業時に「技術士補」相当の資格が得られるというメリットがあります。ところが、高校時代に全く勉強をしてこなかった上に全自動掃除機よりも頭が悪い私には、授業内容の理解が追いつかず単位を多数落としてしまいました（現在も再履修中）。このようにJABEE君には苦しめられましたが、その甲斐あって早々に

就職先は決まりました。というのもこの領域は3回生の夏休みにインターンシップ実習という必修科目があり、領域と関連する分野の企業や役所に2週間お世話になることになっているのですが、私は高知市内の建設コンサルタント会社さんで貴重な経験をさせて頂きました。この時に、社内の雰囲気にも惚れ込み、ここに就職しようと直感で決めました。そして、自分の直感を信じて受験した結果、見事に内定を頂くことができました。卒業後には、高知県を中心とする全国の社会基盤の整備に貢献していこうと考えています。

次に、学外活動の話を紹介したいと思います。私は自転車に乗ることを趣味としていて、よほどの理由がない限り通学も自転車を利用しています。自宅から学校まで片道約20km、週に約200km走るほどに自転車が大好きです。4回生の夏、大学生の間でしかできないこと、これまでに経験したことのないことに挑戦したいという欲求に駆られた私は、生まれ故郷である新潟まで自転車で目指すことを決意しました。高知→愛媛→広島→岡山→兵庫→大阪→京都→滋賀→福井→石川→富山→新潟の経路で9日間かけて総走行距離約1200kmを走り切ることに成功しました。途中、未知の地に対する不安、悪天候などもありましたがそれもまた一興。見知らぬ土地の空気に触れ、大きな達成感が味わえました。今回、時間の都合上挑めなかった復路も、大学卒業までに走破したいと思っています。



長かったようであつという間に過ぎてしまった大学生活でしたが、その中で多くを学び、経験したことで大きな成長を遂げることができたと感じています。そして何より先生方、先輩、同回生、後輩等の方々に恵まれたことに感謝しています。これからも人との出会いを大切に、クラゲではなくヒトとして成長し続けていく人生を送りたいと思います。

夢の置き場所

農芸化学科4年生 新居 直人

この後援会だよりを読んでいるとき、僕は卒業を間近に控えていることでしょうか。その時、僕はいい4年間だったと思えているのでしょうか。みなさんはどうですか。いい4、3、2、1年間だったと思えていますか。後援会だよりを読んでいる保護者の方々、大学生活中は社会に出るために多くの不安と戦わなくてはなりません。だからこそ、皆様のお子様はきっとこの高知大学で見違えるほど大きく成長しています。

4月、高知大学での最後の1年を迎えました。正直、この1年を始めるにあたり不安しかありませんでした。大学院に進学するか否か、就職活動が上手くいくのか否か、1年生の時から頑張ってきた教職の授業の総まとめである教育実習が上手くいくのか、お世話になった先輩も卒業し、研究室での実験が上手くできるのか。日々、右往左往し、すべてをやめてしまいたいと何度も思いました。ただ、良くも悪くも時間は待つてはくれません。時は流れ、今はまだ大学生活中ですが、絶対にいい1年だったと思えると自負しています。

まず、僕が一番大事にしたことは落ち着いて本当の自分の声を聴くことでした。落ち着いて自分と向き合うと人の前では怖い、嫌だと言いつつも本当は負けたくない、やってやるしかない、

起き上がろうとしている自分と出会うことができました。そこからは全く参考にならないやり方で、拙く、不器用に、前ではなく足元だけを見て走りぬいてきました。そして、やって後悔することは一つもありませんでした。僕の場合はそうでしたが、その時に本当に逃げたいと思う自分に出会ってしまう人もいるかもしれません。その時は逃げれば良いと思います。だってそれは他の誰でもないあなたの人生なのですから。だってあなたの心がそう言っているのですから。そしていつの日かもう一度走り出せば良いと思います。

この高知大学は僕にとって夢の置き場所でした。もうすぐ親や学校の先生に決められたレールを走ってはいけなくなる時が来ます。自分の将来を決める重圧は計り知れません。でも、これからは自分自身で目の前に新しいレールを引いていくことができます。右に行くのも左に行くのもあなた次第、1時間先、1年先、10年先のレールはまだ完成していません。それを自分の力で作っていくことができる。それってとっても素敵なことだと思えてきませんか。

4年間の大学生活で得たこと

海洋資源科学科
海洋生物生産学コース4年生 佐藤 尚

追々寒さの加わる時期となり、長いようで短かった大学生活があと数か月で終わろうとしています。少し早い気もしましたが、これまでの大学生活を振り返ってみると学業とアルバイトのみで、なんか味気ないというのが率直な感想でした。しかし、私はこの4年間の大学生活で様々なことを経験し、人として大きく成長することができました。

1年生の時、私は学生寮で生活しました。親元を離れることと見知らぬ人達との共同生活に多

少なりとも不安がありましたが、優しい友達や先輩に恵まれ、内向的な性格を大きく変えるきっかけとなりました。また、大学での授業は高校生までのものとは全然違っていたため、周りに追いつこうと必死だったことは今でも覚えています。

2年生では、キャンパスが朝倉から物部に移ると同時に私の一人暮らしが始まり、時間やお金の面で一人暮らしの大変さを痛感しました。また、専門的な授業に加え実験や実習も増え、学業とアルバイトを両立させることに必死でした。大変でしたがその分学ぶこともたくさんあり、学校やアルバイト先で多くの人と関わり成長できたのではないかと思います。

そして、4年生の現在は水族環境学研究室に所属し、卒論に向けて着々と実験と論文制作を進めています。もともと魚に興味があったことから高知大学の海洋生物生産学コースへの進学を決めましたが、現在所属している研究室の先生の講義を受けて水族環境学や遺伝子工学に興味を持ち分属に至りました。私が今行っている研究は、珪藻に感染するウイルスから「プロモーター」と呼ばれる転写開始のスイッチとなるDNA領域を単離し、その転写誘導活性を評価するというものです。私は3年生の後期に分属されてからすぐに今の卒論研究を始めましたが、現在までに興味深いデータも得られて日々楽しく実験を行っています。

このように、高知大学に入学してから様々なことを経験し成長することができました。このような経験ができたのは、高知大学に入学すると決めてから今日まで支えてくれた家族のおかげです。また、高知大学での生活をより充実したものにしてくれた友達、先輩方、先生方に心から感謝しています。残り数か月で社会人となりますが、高知大学で学んだことを活かし家族やお世話になった方に恩返しができると思います。

Life experience in Kochi, Japan

RANA LOKENDRA

I am Rana Lokendra from Nepal. I came here in Japan on March 01 2019 A.D to study Masters Course on Plant breeding and Genetics, in Kochi University. In Kochi I found the environment good and peace. All the areas are neat and clean and the people whom I meet are very humble and helpful. The climate of Kochi and my home town Jumla, Nepal is quite similar. In my home town there is snowfall in winter and temperature drops up to -10 degree Celsius.

Here in Kochi there are lots of nice places to visit. I already visited the Kochi Castle, Muroto School house aquarium, Geological Park, Kachurama sea port, the light house in Muroto, Loki cave, Noichi Zoo, Ryugado cave and other different romantic places. I had also got an opportunity to eat some Japanese food items. I tested the Ramen, Udon, Sushi, Karage, Miso soup, Takoyaki, Sashimi, Katsuo no Tataki, Yakisoba and other different food items. I like the Katsuo no Tataki and Udon the most among the food that I had eaten. Since my country is land locked I enjoy walking near the sea banks of Monobe. When I get free time I go for walk near the sea bank.

At last I thank Kochi University for providing me higher education as well as opportunity to experience the great and wonderful life in Kochi, Japan.

(和訳)

高知での生活体験

総合人間自然科学研究科
農学専攻1年生 ラーナ ロケンドラ

私はネパールから来たラーナ ロケンドラといいます。私は高知大学修士課程で植物育種と遺伝学を学ぶために2019年3月1日に来日しました。

高知は落ち着いて学ぶにはよい環境だと思います。周りの環境はきちんとして清潔で私が出会った人々はとてもつつましくて親切です。高知の気候と私の故郷であるネパールのジャムラの気候はとてもよく似ています。私の故郷では、冬は雪が降り、気温はマイナス10度まで下がります。

ここ高知ではたくさんの素敵な場所があり、私は既に高知城やむろと廃校水族館、室戸世界ジオパーク、桂浜、室戸の灯台、伊尾木洞、のいち動物公園、龍河洞、そのほかロマンあふれる場所を訪れました。また、日本のいろいろな食べ物を食べる機会もありました。私はラーメン、うどん、寿司、から揚げ、味噌汁、たこ焼き、さしみ、かつおのたたき、やきそばなどいろいろな料理を試しました。その中でも特にかつおのたたきとうどんが好きです。私の国は陸地に囲まれているので物部の海辺の近くを歩くのを楽しんでいます。時間が空いた時には近くの海辺を散歩に行きます。

最後に、高知大学に高等な教育を提供してくれ、ここ日本の高知ですばらしい経験の機会を与えてくれたことに感謝します。

一心一意

総合人間自然科学研究科
農学専攻1年生 東川 義弘

この後援会便りの執筆連絡を受けてかっこいい四字熟語をタイトルにしてやろう、と思い調べていて目に留まった言葉がある。一心一意。心一つにして一途に思うこと、集中して一心に励むこと、とある。こう言うのもなんだがこの言葉ほど自分に似つかわしくないものはないと思う。少なくとも大学だけで考えてもなかなか迷走してきた。特になにかしたいことがあって高知大学に来たわけではない。コース分属の際もおもしろそうかな、とあまり考えずに選択した。研究

室分属の時は少しは考えたが決めるのはかなり早かった。その後いろいろしていたら大学院に行くことになり、専攻分野まで変えることにした。今考えたら何故にあんなにあっさりと決めることができたのか理解できない。確かに気心知れた友人がいて頼りになる先輩もいる。それを鑑みたとしても本当にあっさりと決めた。実際今現在とても苦勞している。しかし勉強に、ではない。計画立てて研究を進めていくことに、だ。院生であるから自立して研究を進めなければならないのになんやかんや目の前のことにかまけていたら前期が終わってしまった。ただでさえ専攻分野を変えたのだから2年しかない院生生活の半年が、である。計画立てることが苦手なのはわかっていたが自分でもこうなるとは思わなかった。もっと早く親の忠告を親身に聞いておけば…と思っても後の祭りである。やるしかない。

こんな生活を送ってきたがなんとかやってこれたのは周りの人たちのおかげだと思う。家族は当たり前だが特に旧流域環境工学コースの先生方、同級生には本当にお世話になった。ついこの間もなぜか高知に遊びに来てくれて遊んだり、と卒業してからもつながりが切れていないことを考えたらこの大学のこのコースで過ごすことができたことはよかった、と思っている。



多分これまでこうしてきたのだからこれからは根本が変化することはないだろう。自立して研究

を遂行していけるようになるのにもまだまだ時間がかかりそうである。先生、すみません。でも投げ出さずに1つずつこなしていったらいつか「一心一意」が自分のものになるのではないのかな、と思いながらこれを書いている今も必死に明日の実験予定としなければならないことの順位付けをしている。後1年半頑張ります。

大学院生って凄いのでしょうか

総合人間自然科学研究科
農学専攻1年生 原田 泰輔

私は現在高知大学の大学院生です。大学へ入学した時は大学を卒業してからさらに進学してこのような立場になることは全く想像していませんでした。私が卒業した農学部農学科生命コース（現農林海洋科学部農芸化学科）は、とても環境に恵まれていました。気の合う友人に出会い、共に忙しい学生生活を過ごしました。そんな友人達はもう就職し、社会人として活躍しています。恵まれていると感じる一番の理由は、このコースに所属する学生の意識がとても高かったからです。学科の中でも特に授業の内容が難しいとされる食料・生命コースに所属し、暗記力と応用力が求められる授業を受けてきました。さらに、学生実験では誰一人として作業を怠る人はおらず、全員が協力し合って作業をしていました。そんな人達の集まりなので、就職先も有名な企業が多いです。高知大学大学院へ進学した人も50人中15人ほどで、3、4人に1人は進学しています。このことはとても凄いことだと思います。実際に、私の周りにはいる大学院生は学部時から学力の高い、実験を率先して取り組む人たちばかりです。大学院生はほとんど自身の研究を進める毎日なので、一つのことに朝から晩まで一途に取り組むこととなります。それゆえ知識は高まり、実

験の技術のレベルも高い。院生って本当に凄い。学部卒の人が有名な企業に就職しているのだから、大学院生はそれ相応のところに就職したいと考えている人が多いのではないかと思います。大学院を卒業された先輩も、有名な企業へ就職されているからです。しかし、実際はそんなこともなかったりします。高知大学が「地方」であることで、「学歴フィルター」のせいで大手企業は頭の中にないないという人が学部の頃からたまにいます。この人の能力ならそんなフィルターこじ開けられるのにな、と私は思います。私のバイト先には、高校生や専門学生、パートの方がいます。その方達とお話をすると、高知大学というだけで国公立だから凄いとわれ、大学院生というだけで実験ができるから凄いとわれられます。本当に、そういうことだと思います。おそらく、周りの院生は有名な企業に就職を決めるだけでなく、就職先で大活躍しそうな気がします。高知大学大学院は、高知大学時代に見つけた自分の一芸を磨くことのできる場所です。私も高知大学大学院生として、凄い周りの院生に後れを取らないように、必死に頑張ります。

小さな自分

総合人間自然科学研究科
農学専攻1年生 藤本 有輝

地元を離れ、高知での大学生活が始まり5年が経ちました。この長かったようで短かった5年間の中で、私は様々なことを吸収し成長できたと感じています。講義や自身の研究を通して専門分野の知識を蓄積できたことはもちろん、先生方や研究職の方と交流させていただく機会を通じて人間関係の面でも成長できたと思っています。

私が大学院への進学を決意したのは、自分の

興味のある分野についてより深く理解し、それらを自分のものにしたいと思ったからです。好きなことを好きなだけできる2年間にしたい、そう思って大学院への進学を決断しました。学部生の時にティーチングアシスタント(TA)の方に実験の手順やノウハウを教えていただく機会があったのですが、落ち着きがあり私たちの質問に丁寧に回答してくださるその姿に尊敬の気持ちを抱いていました。それが、今となっては自らがTAとなって学部生の実験をサポートする立場へとなっています。あの頃の先輩方のように上手に説明したり回答したりできているかは分かりませんが、成長したと感じさせられる瞬間のひとつです。

私は、日本における外来生物であるブラックバスの遺伝子を調べ、その配列の違いから地域ごとでそれらがどこからやってきたのか突き止める、といった堅苦しい研究をしています。皆さんもイメージにあると思いますが、遺伝子は目に見えない非常に小さなものです。ですが、その小さな存在が生物たちの姿形、そして生物同士の関係性まで形作っています。その「小さくて大きな」遺伝子に魅力を感じ、私はこの研究をしています。冒頭で、大学院で「好きなことを好きなだけできる2年間にしたい」と綴りました。遺伝子の研究が好きなのはもちろんですが、私は釣りが好きで特にブラックバス釣りが最も好きな釣りのひとつです。好きなこと×好きなこと=楽しいに決まっていますよね!!今は大学院に進学して本当に良かったと思っています。

来年は、就職活動に修士論文の作成と、かなり忙しい1年になると考えられます。そんな中でも自分の信念を貫き、我が道を進みたいと考えています。今は一人の大学院生、社会人となってからは企業の中の一人という小さな存在かもしれませんが、いつか何か大きなことを成し遂げたい

と思います。未だ漠然としており、全く具体的ではありませんが…。そんな「小さくて大きな」人間になれるよう日々精進していきます。



大学で得られたこと

総合人間自然科学研究科
農学専攻2年生 山本 純士

私の身近に森林があったことや世間の環境への関心の高まりといったことがあり、森林科学について学びたいと思い高知大学農学部に入學しました。私は高知大学で様々なことを経験しました。その中でも高知大学演習林トレイルランにスタッフとして参加したこと、大学院での研究の二つが特に大きな経験だと思います。

高知大学演習林トレイルランとは、大学の山である演習林内を走るランニングイベントです。普通のマラソンとは違い、「こんな道走れんやろ」と普通の人なら思う未舗装の激のほり激くだりの道を走ります。こんなイベントですが300人の定員が申込日初日で埋まるほど人気があります。全国でこのようなトレイルランは行われており、林業だけでなくこのような森林の活用の仕方があるのだと思いました。

私は、このトレイルランスタッフとして学部一回生から参加しました。初めてのトレイルランではコース上での立哨を行い、2回生からトレイルランの運営に関わりました。トラブルもあり、うまく

いかないことも多かったですが自分なりにイベントをより良くしようと改善してきました。最近では、ストップウォッチでのタイム計測では計測間違いやスムーズな完走証発行ができなかったためICカードを用いたタイム計測を開発しました。2018年度の演習林トレイルランからこの計測を行い、演習林だけでなく中四国でのトレイルランニングレースやマラニックでのタイム計測も行うようになりました。このことで、他大会のスタッフやランナーなど様々な人と交流し、関わりを持つことができ自分自身の成長にもつながったと思います。

私は、森林資源材料科学研究室に所属しています。この研究室では主に紙・セルロースに関する研究を行っています。私は現在、イオン液体というセルロースを溶解する機能を持つ液体を用いてパルプを処理し、紙の強度や新たな機能を付与する研究をしています。研究の成果は学会発表や研究論文の投稿を行うことで発表しています。特に研究論文は英語での投稿を行い、指導教官に何度も添削していただき完成させることができました。なれない英語での文章の作成は大変でしたが私にとって良い経験になったと思います。

大学生活を振り返ってみると様々なことがありましたが、高知大学に入學してよかったと思います。大学で得られたことを活かし卒業後も頑張りたいと思います。



就職等進路状況資料

学部

平成26年度～平成30年度農学部卒業生進路状況(各年5月1日現在)

学部	卒業年度	2014(平成26)年度卒業 2015年3月卒業		2015(平成27)年度卒業 2016年3月卒業		2016(平成28)年度卒業 2017年3月卒業		2017(平成29)年度卒業 2018年3月卒業		2018(平成30)年度卒業 2019年3月卒業		
		区	分	計	男	女	計	男	女	計	男	女
農	卒業生数			173	89	84	168	96	72	169	88	81
	就職希望者			113	52	61	128	68	60	115	63	52
学	企業等			95	39	56	104	56	48	84	45	39
	公務員			7	4	3	18	9	8	24	13	11
部	教員			2	2	0	1	0	1	3	2	1
	教員内訳			104	45	59	114	62	57	111	60	51
	就職率			92.04%	86.54%	96.72%	98.39%	91.18%	95.00%	96.52%	95.24%	98.08%
	進学率			50	30	20	44	23	9	48	21	27
	その他			10	7	3	7	4	3	4	3	1
	計			166	84	85	168	96	72	169	88	81
	計			127	59	62	128	68	60	115	63	52
	計			92	44	51	104	56	48	84	45	39
	計			30	9	8	24	13	11	30	19	11
	計			1	0	1	1	0	1	3	2	1
	計			123	53	61	119	62	57	111	60	51
	就職率			96.85%	96.54%	96.72%	98.39%	91.18%	95.00%	96.52%	95.24%	98.08%
	進学率			96.67%	96.54%	96.72%	98.39%	91.18%	95.00%	96.52%	95.24%	98.08%
	その他			4	2	2	7	4	3	4	3	1
	計			32	23	21	33	24	9	48	21	27
	計			23	10	10	17	7	4	11	6	4
	計			2	1	1	2	1	1	3	2	1
	計			4	3	3	7	4	3	4	3	1
	計			2	1	1	2	1	1	3	2	1
	計			97.01%	96.85%	96.72%	98.39%	91.18%	95.00%	96.52%	95.24%	98.08%

(注)①就職率は、就職希望者と就職者の比率を示す。②秋季卒業生・早期卒業生・短期卒業生を含む。③教員には臨時教員も含む。

高知大学 平成26年度～平成30年度 農学部卒業生主な進路先一覧

平成26年度(平成27年3月)卒業	平成27年度(平成28年3月)卒業		平成28年度(平成29年3月)卒業		平成29年度(平成30年3月)卒業		平成30年度(平成31年3月)卒業		
	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	
公務員	高知県庁	公務員	高知県庁、徳島県庁、高知市役所、和歌山県庁、愛知県庁	公務員	高知県庁、徳島県庁、高知市役所、高松市役所、愛知県庁	公務員	高知県庁、徳島県庁、高知市役所、高松市役所、愛知県庁	公務員	高知県庁、徳島県庁、高知市役所、高松市役所、愛知県庁
公務員	高知市役所、南国市役所	公務員	高知市役所、高松市役所、高知市役所	公務員	高知市役所、高松市役所、高知市役所	公務員	高知市役所、高松市役所、高知市役所	公務員	高知市役所、高松市役所、高知市役所
教育・学習支援	大阪府和泉市教員	教育・学習支援	愛知県立教員	公務員	高松高等裁判所	公務員	高松高等裁判所	公務員	高松高等裁判所
卸売・小売業	株式会社太田花き	農	有限会社川洲牧場	林	丸和林業株式会社	教育・学習支援	愛知県私立高校教員	教育・学習支援	岐阜県立岐阜卓単学校教員
卸売・小売業	株式会社ジジージャパン	林	丸和林業株式会社	建設	丸和林業株式会社	林	丸和林業株式会社	農	株式会社村上農園
製造業	株式会社えがお	建設	株式会社サンテック	製造業	株式会社東ハト	建設	丸和林業株式会社	建設	株式会社池田組
製造業	株式会社オイス	製造業	株式会社サタケ	製造業	アヲハタ株式会社	製造業	ニッポン高度紙工業株式会社	製造業	山崎製パン株式会社
製造業	ひまわり乳業株式会社	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	クミアイ化学工業株式会社	製造業	株式会社伊藤園
製造業	ハタダ株式会社	情報通信業	医療システムズ株式会社	情報通信業	新出光	情報通信業	株式会社システムリサーチ	情報通信業	ヒロヤギコンピュータシステム株式会社
製造業	株式会社あけぼの	卸売・小売業	関株式会社	情報通信業	日立システムズ	情報通信業	株式会社ユーコム	情報通信業	アドバンス・マネジメンツ・テクノロジー(株)
金融・保険業	株式会社高知銀行	卸売・小売業	大信産業株式会社	情報通信業	富士通株式会社	情報通信業	中日本航空株式会社	運輸業・郵便業	日本郵便株式会社
情報通信業	アルファインテック株式会社	金融・保険業	株式会社四国銀行	運輸業・郵便業	西日本旅客鉄道株式会社	卸売・小売業	株式会社日本アセス	卸売・小売業	株式会社東洋冷蔵
建設業	東亜建設工業株式会社	医療・福祉	徳島赤十字病院	卸売・小売業	ヨドバシカメラ	金融・保険業	株式会社四国銀行	金融・保険業	山口フアンパシフィックグループ
農	有限会社竹内園芸	複合サービス事業	馬路村農業協同組合	金融・保険業	株式会社高知銀行	医療・福祉	近畿健康管理センター	医療・福祉	藤本製菓株式会社
複合サービス事業	高知農協協同組合	複合サービス事業	生活協同組合とくしま生協	複合サービス事業	JA全農こうち	複合サービス事業	JA全農	複合サービス事業	JA高知県

学部 平成30年度 農学部卒業生就職等進路状況 (令和元年5月1日現在)

農学科 コース	卒業生		就職希望者		就職者内訳						☆ 就職率 (%)	就職未定者内訳		進学等 大学院・ 専攻科・ 専攻科	就職を希望しない学生 公務員・ 教員・ 再受験 不明	昨年の 就職率 3.12現在 (%)					
	就業者		就職希望者		県内			県外				企業等	公務員				教員				
	県内	県外	県内	県外	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員											
暖地農学 コース	計	31	6	25	26	6	3	3	0	20	17	3	0	100.00	0	0	0	0	0	1	93.33
	男	10	5	5	7	4	3	2	2	2	3	3	0	100.00	0	0	0	0	1	0	93.75
	女	21	1	20	19	2	1	1	0	17	14	3	0	100.00	0	0	0	0	0	1	92.86
海洋生物 生産学 コース	計	30	4	26	22	3	1	2	1	0	19	14	5	100.00	0	0	0	0	0	1	100.00
	男	20	3	17	13	2	1	1	0	11	7	4	0	100.00	0	0	0	0	0	1	100.00
	女	10	1	9	9	1	0	1	1	0	8	7	1	100.00	0	0	0	0	0	0	100.00
食料科学 コース	計	26	2	24	18	1	1	0	0	16	14	2	0	94.44	1	0	0	0	0	0	90.91
	男	9	0	9	4	0	0	0	0	4	3	1	0	100.00	0	0	0	0	0	0	88.89
	女	17	2	15	14	1	1	0	0	12	11	1	0	92.86	1	0	0	0	0	0	92.31
生命科学 コース	計	24	1	23	14	1	13	15	1	0	14	12	1	112.50	0	0	0	0	0	1	88.89
	男	14	0	14	8	0	8	9	0	0	9	7	1	112.50	0	0	0	0	0	0	90.00
	女	10	1	9	6	1	5	6	1	0	5	5	0	100.00	0	0	0	0	0	1	87.50
自然環境学 コース	計	17	0	17	17	3	2	1	0	12	9	3	0	88.24	1	0	0	0	0	1	86.89
	男	10	0	10	11	2	9	9	2	2	0	1	0	81.82	1	0	0	0	0	0	83.33
	女	7	0	7	6	1	5	6	1	0	5	2	0	100.00	0	0	0	0	0	0	100.00
環境理工学 コース	計	19	2	17	15	2	2	0	0	13	8	5	0	100.00	0	0	0	0	0	0	100.00
	男	11	1	10	8	1	7	8	1	0	0	7	3	100.00	0	0	0	0	0	0	100.00
	女	8	1	7	7	1	6	7	1	1	0	6	5	100.00	0	0	0	0	0	0	100.00
森林科学 コース	計	13	2	11	11	3	8	10	3	0	7	5	2	90.91	1	0	0	0	0	0	81.82
	男	8	2	6	7	3	4	7	3	0	4	3	1	100.00	0	0	0	0	0	0	66.67
	女	5	0	5	4	0	4	3	0	0	3	2	1	75.00	1	0	0	0	0	0	92.31
国際支援学 コース	計	6	0	6	4	0	4	3	0	0	3	3	0	75.00	1	0	0	0	0	0	77.78
	男	3	0	3	2	1	0	0	0	0	1	1	0	50.00	1	0	0	0	0	0	60.00
	女	3	0	3	2	0	2	2	0	0	2	2	0	100.00	0	0	0	0	0	0	100.00
合計	計	166	17	149	127	19	108	123	19	10	9	0	104	96.85	4	0	0	31	2	3	90.15
	男	85	11	74	60	12	48	58	12	6	6	0	46	96.67	2	0	0	22	1	0	87.32
	女	81	6	75	67	7	60	65	7	4	3	0	58	97.01	2	0	0	9	0	1	93.44

※ 本表は平成31年3月の学部卒業生の就職状況である。

(秋季卒業生・早期卒業生を含む) (就職者に期限付き採用者を含む) (教員には、専門学校教員・大学教員を含む) (国立大学・公立大学・私立大学・国立病院機構は法人化されているので企業等に算入)

☆ 就職率=就職者÷就職希望者 就職未定者とは、就職希望者の内、就職が確定していない者をいう。

大学院 平成30年度 総合人間自然科学研究科農学専攻 (修士課程) 修了者就職等進路状況 (令和元年5月1日現在)

専攻	修了者		就職希望者		就職者内訳						☆ 就職率 (%)	就職未定者内訳		進学等 大学院・ 専攻科・ 専攻科	就職を希望しない学生 公務員・ 教員・ 再受験 不明	昨年の 就職率 5.1現在 (%)					
	就業者		就職希望者		県内			県外				企業等	公務員				教員				
	県内	県外	県内	県外	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員											
農学専攻	計	33	4	29	29	3	26	27	3	2	1	0	24	93.10	2	0	0	2	0	1	100.00
	男	25	3	22	22	2	20	20	2	0	0	18	17	90.91	2	0	0	1	0	0	100.00
	女	8	1	7	7	1	6	7	1	0	1	0	6	100.00	0	0	0	1	0	0	100.00

※ 本表は平成31年3月の大学院修了者の就職状況である。

(秋季卒業生・早期卒業生を含む) (就職者に期限付き採用者を含む) (教員には、専門学校教員・大学教員を含む) (国立大学・公立大学・私立大学・国立病院機構は法人化されているので企業等に算入)

☆ 就職率=就職者÷就職希望者 就職未定者とは、就職希望者の内、就職が確定していない者をいう。

令和元年度後援会総会について

後援会総会を、4月3日（水）入学式に出席された保護者の皆様にご出席いただき、高知会館で開催しました。

本総会では、本年度事業計画・予算案、平成30年度事業報告・決算報告が承認され、次のとおり令和元年度役員が選出されました。

令和元年度 農林海洋科学部・農学部後援会役員名簿

	役職名	氏名	学生の学科・コース等	学年
①	会長	森下 祥朋	農林海洋科学部／農芸化学科	2
②	副会長	武政 久志	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	3
③	副会長	秋澤 成高	大学院農学専攻	1
④	会計	松吉美佐子	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	2
⑤	監事	森田 研一	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	3
⑥	監事	藤本 智美	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	2
⑦	理事	濱田 和彦	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	4
⑧	理事	澤田 伸夫	農林海洋科学部／農芸化学科	4
⑨	理事	池田 ユカ	農林海洋科学部／ 海洋資源科学科海洋生物生産学コース	4
⑩	理事	濱田 典明	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	4
⑪	理事	吉田 君	農林海洋科学部／農芸化学科	3
⑫	理事	中川 秀樹	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	2
⑬	理事	八木橋崇行	農林海洋科学部／ 海洋資源科学科海底資源環境学コース	1
⑭	理事	青木 美奈	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	1

令和元年度 予算書

1. 収入の部

科 目	金 額	内 容
繰越金	4,569,514	前年度からの繰越
会費	4,500,000	学部@30,000×140人=4,200,000 大学院@15,000×20人=300,000
雑収入	60	預金利息(H30年度実績)
計	9,069,574	

2. 支出の部

科 目	金 額	内 容
就職斡旋旅費等 助成金	2,000,000	新入生の物部開講授業への補助、学生の就職活動に関するガイダンス・講演会の開催、就職関係図書(会社四季報、週刊東洋経済等)購入、大学行事(オープンキャンパス、大学祭、物部キャンパス1日公開、物部フォーラム等)への援助、総会・役員会等会議費、学部の管理運営への補助、学生表彰、その他
課外活動助成費	500,000	課外活動用品購入・修理、よさこい踊り参加補助、学生と学部長等との意見交換
事務経費	300,000	用紙類、文具類、通信費、印刷費等
卒業記念品費	500,000	卒業記念写真、証書入れファイル、手提袋等
卒業生送別費	1,100,000	卒業・修了歓迎祝賀会
後援会だより	700,000	印刷費等
予備費	3,969,574	保護者会、その他学生支援経費等
計	9,069,574	

平成30年度 決算書

1. 収入の部

科 目	当初予算額	決 算 額	差 額	備 考
繰 越 金	3,190,984	3,190,984	0	
会 費	4,500,000	5,115,000	615,000	
雑 収 入	47	103,088	103,041	寄付金10万円
計	7,691,031	8,409,072	718,041	

2. 支出の部

科 目	当初予算額	決 算 額	差 額	備 考 (主な支出・補助の項目等)
就職斡旋旅費等助成金	2,000,000	1,136,568	863,432	就職ガイダンス・就職セミナー 就職関係雑誌 新入生の物部開講授業支援 学生学部長表彰 大学祭(黒潮祭)活動資金支援 学部行事関係(オープンキャンパス、物部 キャンパス一日公開、ホームカミングデー) 後援会総会・役員会
課外活動助成費	500,000	476,268	23,732	よさこい参加学生補助、 課外活動用品(運動用具)
事務経費	300,000	202,010	97,990	通信費(後援会だより・入会の案内発送、 役員会等案内)、印刷費(封筒他)
後援会だより	700,000	513,520	186,480	後援会だより印刷費等
卒業記念品費	400,000	436,800	-36,800	卒業記念写真、証書入れファイル、手提袋
卒業生送別費	1,100,000	1,011,344	88,656	卒業生・修了生祝賀会
予備費	2,691,031	63,048	2,627,983	
計	7,691,031	3,839,558	3,851,473	

3. 繰越の部

$$\begin{array}{rcl}
 \text{(収入の部決算額合計)} & \text{(支出の部決算額合計)} & \text{(繰越金)} \\
 8,409,072\text{円} & - 3,839,558\text{円} & = 4,569,514\text{円}
 \end{array}$$

令和元年度 後援会の活動状況

○総会・役員会の開催

- 入学式・総会 平成31年 4月 3日(水)
- 役員会第1回 令和元年 6月18日(火)
- 第2回 令和元年12月16日(月)
- 第3回 令和2年3月開催予定

○新入生への支援

- 「大学基礎論」「学問基礎論」等物部開講時の支援

○第41号後援会だよりの発行

- 学生寄稿原稿を中心に作成し、全保護者への送付(年1回)

○就職活動への支援

- 就職ガイダンス・就職セミナー補助
- 就職用図書購入(会社四季報、週刊東洋経済等)
- その他就職活動のための経費補助など

○学生活動への支援

- 課外活動用品購入
- 学生と学部長等との懇談会
- 日章寮よさこい踊り子隊支援
- 大学祭(黒潮祭)実行委員会への支援など

○学部関係行事への支援

- 物部キャンパス一日公開、オープンキャンパス
- 学生学部長表彰懇談会など

○卒業生・修了生への支援

- 卒業生・修了生の歓送祝賀会
- 卒業記念写真、卒業証書ファイル他
- 秋季卒業生祝賀会

○保護者への情報発信

- 保護者会の開催(保護者を対象に就職説明会を開催)
..... 令和元年11月3日(日・祝)

令和元年度高知大学農林海洋科学部・農学専攻

保護者会(就職説明会)報告

学生をとりまく就職状況等について、保護者の皆様に情報を発信するために11月3日(日)に就職説明会を開催しました。

当日は98名の保護者の方々の出席がありました。リクルート支援の業者から講師をお招きし、現在の就職環境をご説明いただき、また3名の卒業生に体験談を報告していただきました。



日時：令和元年11月3日(日)13:00～14:30

場所：高知大学農林海洋科学部 3-1-13 教室

プログラム

13:00 — 後援会長挨拶

13:05 — 農林海洋科学部長挨拶

13:10 — 就職環境の現状について

講師：内田美和氏(株)リクルートキャリア大学支援推進部)

卒業生による講演

13:30 — H30年度農学部暖地農学コース卒業生

13:45 — H27年度大学院農学専攻修了生(農芸化学系)

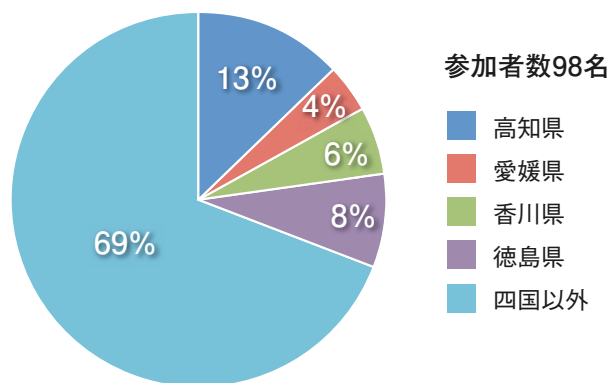
14:00 — H28年度大学院農学専攻修了生(海洋生物生産学系)

14:15 — 講演者によるディスカッション

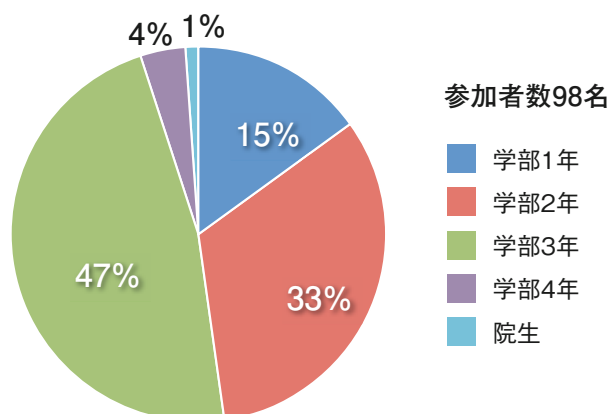
14:30 — 閉会



都道府県別保護者会参加割合



学年別保護者会参加割合



【アンケートの声(一部)】

- 今回の説明会とても参考になりました。ありがとうございました。
- 就職試験(エントリーシート、インターンシップなど)具体的に何月ごろから取りかかったが詳しく聞けてよかったです。
- 準備のスケジュールや就活中の悩み事などが聞けよかった。
- いろいろな就活のカタチがあるんだなあと。

高知大学農林海洋科学部・農学部後援会規則

(目的)

第1条 本会は、高知大学農林海洋科学部・農学部（以下「学部」という。）の充実発展を期し、学部並びに高知大学大学院総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻・農学専攻（以下「専攻」という。）の教育活動を助成することを目的とする。

(名称)

第2条 本会は、高知大学農林海洋科学部・農学部後援会と称す。

(事務所)

第3条 本会の事務所は、後援会長宅に置く。

(会員)

第4条 本会は、学部及び専攻学生（外国人留学生を除く。）の保護者で組織する。

(事業)

第5条 本会は、第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (ア)学部・専攻と保護者の緊密なる連絡
- (イ)学生の教養ならびに福祉に必要な援助
- (ウ)学生の就職斡旋に必要な援助
- (エ)その他学部・専攻の教育達成に必要な事業

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。
 会長 1名 副会長 2名 理事 若干名
 監事 2名 会計 1名

(役員を選出)

第7条 役員を選出は、次のとおりとする。
 (1)会長及び副会長は、理事の互選による。
 (2)理事・監事及び会計は、会員の中から選出する。

(役員の任期)

第8条 役員は、1か年とする。ただし留任を妨げない。
 2 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の仕事)

第9条 会長は、会務を総理する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。
 3 理事は、会務を処理する。
 4 監事は、会務を監査する。
 5 会計は、会計事務を処理する。

(会務)

第10条 本会の会議は、総会と役員会とする。
 2 総会は、毎年1回学年始めに開く。ただし必要あるときは臨時総会を開くことができる。
 3 役員会は、必要に応じ会長が召集する。

(総会)

第11条 総会において行う事項は、次のとおりとする。
 (1)予算決算の承諾
 (2)会務の報告
 (3)役員を選出
 (4)規則の改正
 (5)その他必要な事項

(役員会)

第12条 役員会は、第5条にかかげる事項を審議し、これを執行する。
 2 重要事項で緊急を要する場合には、役員会の議決をもって総会に代えることができる。この場合、事後において総会の承認を受けなければならない。

(議決)

第13条 会議の議決は、出席会員の過半数の賛成をえなければならない。

(事務の処理)

第14条 本会の事務を処理するため、事務補佐1名を置き、会長が委嘱する。

(経費)

第15条 本会の経費は、会費をもって充てる。

(会費)

第16条 本会の会費は30,000円（ただし、専攻の場合は、15,000円）とし、子弟の入学時（転入学、転入学部を含む）に一括納付するものとする。ただし、転入学・転入学部については、次のとおりとする。
 2年生22,000円 3年生15,000円 4年生7,500円

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、3月31日に終わる。

附則

本規則は、令和元年12月16日から施行し、令和2年度入学生から適用する。

附則

本規則は、昭和29年4月10日から施行する。

昭和30年 4月11日一部改正
 昭和31年 4月10日一部改正
 昭和33年 4月11日一部改正
 昭和39年 4月10日一部改正
 昭和43年 4月18日一部改正
 昭和47年 4月10日一部改正
 昭和49年 4月10日一部改正
 昭和52年 4月11日一部改正
 昭和55年 4月10日一部改正
 昭和57年 4月10日一部改正
 昭和59年 4月10日一部改正
 平成 8年 4月10日一部改正
 平成20年 4月 3日一部改正
 平成28年 2月 8日一部改正
 令和元年12月16日一部改正

令和元年度 学年暦

月 日	学年暦・行事
4月 2日(火)	新入生オリエンテーション
4月 3日(水)	入学式
4月 4日(木)	在来生オリエンテーション
4月 5日(金)~4月 8日(月)	在来生 第1学期 履修登録期間
4月 6日(土)~4月 8日(月)	新入生 第1学期 履修登録期間
4月 8日(月)	新入生定期健康診断
4月10日(水)	第1学期授業始
5月 9日(木)	月曜日の授業
7月17日(水)	月曜日の授業
8月 2日(金)~8月 8日(木)	第1学期試験期間
8月 9日(金)~8月31日(土)	夏季休業
9月 1日(日)~9月30日(月)	特別授業期間
9月20日(金)	秋季修了式
9月24日(火)~9月26日(木)	第2学期 履修登録期間
10月 1日(火)	創立記念日
10月 2日(水)	第2学期授業始
10月10日(木)	秋季入学式
10月16日(水)	月曜日の授業
11月 7日(木)	月曜日の授業
12月27日(金)~1月 6日(月)	冬季休業
1月16日(木)	金曜日の授業
1月17日(金)	休講(大学入試センター試験準備)
1月18日(土)~1月19日(日)	大学入試センター試験
1月22日(水)	月曜日の授業
1月31日(金)~2月 6日(木)	第2学期試験期間
2月 7日(金)~2月29日(土)	特別授業期間
3月 1日(日)~3月31日(火)	学年末休業
3月23日(月)	卒業式・修了式

物部キャンパス PHOTO ALBUM

Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University Monobe Campus

授業風景

新1年生が一般教養を学ぶ朝倉キャンパスから物部キャンパスにやってきて授業を受けました。この日のお弁当は後援会から支給しています。







キャンパス
風景
イベント

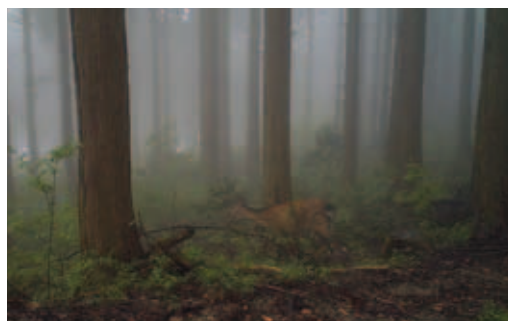
令和元年度入学生の入学式は平成最後の平成31年4月3日に執り行われました。



11月3日に開催された物部キャンパス一日公開の様子。学生もたくさん出店しました。



物部キャンパスで飼育されている「高知県産褐毛和種高知系」。通称「土佐あかうし」



高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター嶺北フィールド(演習林)の梅雨のワンシーン。霧の中に鹿が見えます。本誌表紙の写真も同じく嶺北フィールドのもので。



高知大学農林海洋科学部産のお米



平成31年3月22日卒業式後に開催された後援会主催の卒業生・修了生祝賀会

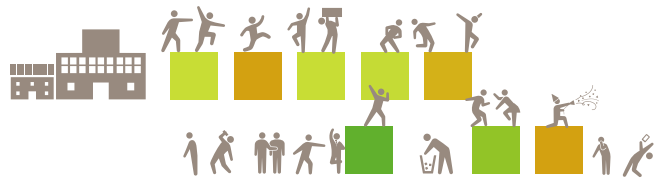
教育用、研究用
ハウスを
2棟ずつ新設



平成30年度に高知県が申請した産学官プロジェクト「「IoP (Internet of Plants)」が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化」が内閣府に採択され、高知大学も参画機関となり、農林海洋科学部や農林海洋科学専攻(令和2年度設置)において人材育成が進められています。その一環で物部キャンパスのハウスも新設工事が進んでいます。既存ハウスの取り壊し写真と完成間近の新設ハウスの写真です。



保護者
参加行事



4月3日入学式の後に開催された後援会総会



11月3日に開催された後援会主催の保護者会(就職説明会)



高知大学 学歌

作詞：岡部剛機 作曲：町田育弥

1 風光る 山分り深き
 南国の 緑は千歳
 いにしへの 歴史に学び
 飛躍する 未来の蒼天に
 ああ我ら
 高き理想の 軌跡を拓く
 高知大学 栄えあれ

2 水光る 四万十川の
 清かなる 流れの如く
 清新の 夢育み下
 究め合う 追風の精神
 ああ我ら
 高き理想の 軌跡を集う
 高知大学 望みあれ


3 波光る さかゆく土佐は
 星潮の 志みに満ちて
 永久に 生命を繋ぎ
 向上の 波津海遡り
 ああ我ら
 高き理想の 軌跡を磨く
 高知大学 誇りあれ


♩=108

高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センターでは、ホームページ上やfacebookで情報を発信しています。よろしければご覧ください。

ホームページURL

<http://www.kochi-u.ac.jp/agrimar-fs/index.html>

 高知大学南国フィールド(農場)

 高知大学農林海洋科学部附属
暖地フィールドサイエンス教育研究センター 嶺北フィールド(演習林)



表紙の写真について

高知大学農林海洋科学部
附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター嶺北フィールド(演習林)
(写真右側は学生が実習でヒノキを植栽した場所です)



高知大学農林海洋科学部

Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

物部キャンパス

Monobe Campus

- 1 農林海洋科学部1号館
- 2 農林海洋科学部2号館
- 3 農林海洋科学部3号館
- 4 農学部4号館
- 5 実験研究棟
- 6 厚生会館(非常勤講師宿泊施設)
- 7 学術情報図書館物部分館及び講義室棟
- 8 福利厚生会館(大学生協)
- 9 附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター
- 10 体育館
- 11 日章寮
- 12 留学生寄宿舍
- 13 国際交流会館
- 14 遺伝子実験施設
- 15 共同利用機器分析室棟
- 16 海洋コア総合研究センター
- 17 大学院総合人間自然科学研究科
黒潮圏総合科学専攻棟
- 18 運動場

